

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	とおりゃんせサードプレイス大空			
○保護者評価実施期間	2025年6月10日 ～ 2025年7月12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	19
○従業者評価実施期間	2025年6月10日 ～ 2025年7月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	9
○事業者向け自己評価表作成日	2025年9月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	同法人の生活介護等の幅広い年齢層の方との交流が行える。	各種イベント時には、同じ空間で交流を行えるよう工夫している。	イベント時以外にも、交流が行えるようにスタッフ同士が連携するように努力している。
2	ホームページやInstagramにて、活動の様子などを幅広く発信している。	肖像権に十分に注意した上で、児童の笑顔を発信できるように努力している。 児童の心に残るシーンの切り取りに力を入れている。	児童の笑顔を沢山つくりだせるよう、職員一同努力している。
3	各種イベントを多く行っている。また、フットワークが軽く、色々な場所へのお出かけも行っている。	季節の行事は欠かさず行っている。 曜日を工夫するなどして、参加できる児童に偏りが出ないように工夫している。 また、お出かけ時には、交通事故等十分に安全に配慮している	各種イベント開催や公園、季節の花等、常にアンテナを張り情報の収集に努めている

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動面での活動が弱い。	運動に精通した職員がクラスにいない	同法人の他のクラスには、運動に精通した職員が在籍しているため、アドバイスをもらう等している
2			
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		とおりゃんせサードプレイス大空 放課後等デイサービス					公表日 2025年9月25日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		活動に合わせて、机の配置などを工夫している。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		他のクラスから応援に来てもらえる。	スタッフが送迎に出ている間やその日の利用児の心身状態によりスタッフが必要と感じる		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		1フロアという点では利用児、スタッフにとって状況把握しやすい。	車椅子の利用児はいないが、足のケガ等に対応できるスロープが欲しい		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		子供達が使用する机、本、備品、道具などは適宜、消毒されている。営業終了後にはスタッフによる清掃が日々行われている。			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		静養室が2Fに設置されているが利用頻度は低い、パーテーションで囲むなどの対応をしている。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		ミーティングや業務後の報告等により振り返りや対応方法について話をして、業務改善につとめている。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年アンケートを実施して業務の改善につとめている。また送迎時等に保護者の方から意向や希望を確認している			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員アンケートや日々の業務の中で出る意見を月1回管理者ミーティングで共有している			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現在、第三者による外部評価は行われていない。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		外部・内部共に、各スタッフのスキルアップにつなげる研修を行っている。			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページ上に公表されている。			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		月1回の利用の児童など、日々の変化が把握しにくい場合も保護者や相談支援員からしっかりと聞き取りを行うようにしている。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画作成前に、保護者からモニタリングを行い、担当者会議等にてスタッフ間で意見を出し合うようにしている。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		立案された計画は共有し、いつでも見返すことができるようにしている。			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		支援学校の職員の方の意見を参考にしたり、保護者の方、日々の行動から一人一人の心身の状態や変化を把握している。			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		一人一人の特性に合わせた個別の支援計画に、設定されている。			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員一人一人が意見を言える環境を整えています。			

12 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		季節や行事に合わせた、お出かけやイベントを実施している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動の時間、集団活動の時間を適宜組み合わせ、利用児が落ちついて好きな活動が出来るようにしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝のミーティングにより行われている。支援内容によって役割や分担を確認している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		気付いた点を話し合い、共有。良い点を次回につなげる。改善することは方法を考えています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		毎日ケース記録を行っている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月以内の見直し、保護者へのモニタリングを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		適宜組み合わせで行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		各児に合わせて、支援内容を提案したり、選択肢を複数提示するようにしている。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者や担当職員が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力医療機関や学校等との連絡は密に行っている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校からはプリントやメールを適宜受け取っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		他クラスの異動などでは、口頭及び資料などを受け取って、情報を共有している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		直接移行事業への情報提供はしていないが、相談支援員には伝えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○	現在ところ実績ははない。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	現在のところ実績はない。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○	現在のところ実績はない。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		ラインを利用したり、送迎時等に会話の中で情報を共有したり状況報告を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	現在のところ実績はない。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		重要事項説明書に明記するとともに、入所時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		利用児の意思を第一に考え、無理のない範囲での計画作成を行っている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		サインをもらう前には必ず一緒に内容の確認を行うようにしている。	



保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		直接対話、電話、ライン等でいつでも相談してもらえる窓口を作り、迅速に支援が行えるようにしている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	現在のところ実績はない。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情対応の組織を作って窓口を設置している。周知するために、苦情対応についての掲示も行っている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月、とおりやんせ通信を発行している。また、Instagramやホームページで活動の様子などを発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は、鍵のかけたロッカーに保管。ホームページやInstagramも保護者の方に許可を得て掲載している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		文字や言葉だけでなく、絵や写真などのカードも取り入れて工夫している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現在のところ実績はない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		年2回の避難訓練・緊急時や感染症の対応方法を文章にて配布している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		消防署立会いの下、訓練を実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		フェイスシートや医師の指示書を提出してもらって職員間で共有している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		医師の指示書及び薬を保護者の方から預かっている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		車への安全装置の取り付け等、安全には十分に配慮している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		とおりやんせ通信を通じて等、口頭や文書で周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		今までの事例を共有し、いつでも見返すことが出来るようにしている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止委員会を設置し、新人研修に加え、毎年必ず研修を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		今までに、身体拘束を行った事例はない。また、現在身体拘束を行う可能性のある利用児はいない。可能性のある場合は保護者に事前に説明し許可（計画に記載する）をとる。	